

4月の推し本



『科学的に正しい資料作成術』

越川 慎司 // 著 かんき出版 請求記号 007.6/コ/ 資料番号 610106411

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00597601>

【紹介文】「働き方改革」と言われて業務の効率化を求められても具体的にどうすれば？と知っている人へ解の一つになるかもしれません。資料作成のゴールは「伝えたいことが伝わる」ではなく、「思いどおりに相手を動かす」こと。パワーポイントでアニメーションを駆使し、情報を詰め込んで凝ったものを作る為に時間を費やしても、すごい作れるね～という感想を持たれるだけだった...約800人にヒアリングし、5万枚以上のパワポ資料をAI分析して導き出した資料作成に必要なポイントを見れば、生産性も向上し無駄のない資料作成術が身につくかも？パワポでの資料作成、プレゼンが苦手な人におすすめの一冊です。

『身のまわりのありとあらゆるものを化学式で書いてみた』

山口 悟 // 著 ベレ出版 請求記号 430/ヤ/ 資料番号 610104903

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00597241>

【紹介文】世の中には、 H_2O や $C_6H_{12}O_6$ のような化学式を見て目を輝かせる人より、学生時代の苦い記憶を思い出す人のほうが圧倒的に多いと思います。著者は、大学生の時に目に見えない分子が秩序立って世界を構成していることに感動し（目を輝かせる側の方ですね）、化学が苦手な人や嫌いな人にもこの感動が伝われば...という思いで本書を書かれたそうです。身の回りの物を題材にしイラストや図を多用しているので、化学式のどの部分がどのようにくっついたり離れたりするのか、そうなることでどういう現象が起こるのかが理解しやすくなっています。中高生にもお勧めです。

『ドラえもんを本気でつくる』

大澤 正彦 // 著 PHP研究所 請求記号 548.3/オ/ 資料番号 610107450

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00597836>

【紹介文】人は予測して会話をする。では、ロボットはどうだろう？人とロボットはコミュニケーションを図ることができるのか？いや、それどころか、心を持つのか？謎だらけのこの本、著者は真面目にドラえもんを作ることを試みる。そして、読み進めるうちに私たちはAiBOやRoombaに代表される日本のHAI研究の凄さに驚く。最新のHAIを知れば、ドラえもんのいる未来は決して夢じゃない。

『カズのまま死にたい』

三浦 知良 // 著 新潮社 請求記号 783.4/ミ/ 資料番号 610107443

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00597835>

【紹介文】Jリーグ発足当時からプレーを続ける唯一の現役選手である三浦知良選手。「キングカズ」の愛称で親しまれているのはご存知ですね。50歳を超えてもなお、プレーすることにこだわっている理由は？本書は2ページで1項目と読みやすく、飾らない言葉でつづっていて特に奇抜な内容でもない。が、日々できることを積み重ねていく「サッカー愛」が伝わってくる。第一人者として永遠に輝いてほしい、目が離せない選手だ。

『日本人が無意識に使う日本語が不思議すぎる!』

アン クレシーニ // 他著 サンマーク出版 請求記号 810.4 /ク/ 資料番号 610105090

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00597185>

【紹介文】事実と真実はどう違う? どうして桜見ではなく花見と言うの? と聞かれて正しく説明できる人は、日本人でも多くはないと思います。

アメリカ出身の応用言語学者アン・クレシーニが感じる日本語の多様性や曖昧さ・繊細さなど、様々な日本語の疑問にアナウンサーの宮本隆治が答える。

日々無意識に使う言葉だからこそ違う視点でみることで、改めて気がつくことがあります。またこの本を読んで、いかに本来の意味とは違った使い方や覚え方をしているかが分かります。

言葉は時代とともに変化してゆくものですが、四季とともに生まれた豊かな日本語を大切にしたいと思える一冊です。

『綴る女 評伝・宮尾登美子』

林 真理子 // 著 中央公論新社 請求記号 910.2 /ハ/ 資料番号 610107757

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00597927>

【紹介文】数々いる女流作家の中で、映画化・ドラマ化となった作品を多く書き上げたベストセラー作家の「宮尾登美子」さんは直木賞をはじめ、多くの賞を受賞している。波瀾万丈な「女の生き方」をテーマに書けば多くの人は涙する。宮尾さん自身と交流もあった、林真理子さんが同じ作家として、女性として宮尾さんの作家人生を細かく丁寧に追っている。国民的人気作家の光と影が垣間見えるのではないだろうか。

『こんなおおきなかず、みたことある?』 (児童書・絵本)

セス フィッシュマン // 作 偕成社 請求記号 E /グ/ 資料番号 620038653

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00597731>

【紹介文】一、十、百、千、万、億、兆、京、垓、秭、…まだまだ続く数字の単位。そして、この絵本のタイトルにもある100.000.000.000.000.000.000.000 (いっせんがい)、0が23こもついている数字なんてなかなかみることもないだろう。でも、夜空を見上げるとそれだけの数の星がまたたいているらしい。この絵本は、身近なことを数字で示してくれている。本に出てくる数字はどんどん変わっていくということだが、気が付かないうちに食べている虫の数は減ってくれると嬉しい。どのくらい食べているかは、本の中で。

『おひめさまになったワニ』 (児童書・よみもの)

ローラ エイミー シュリッツ // さく 福音館書店 請求記号 933 /シ/ 資料番号 620038729

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00597763>

【紹介文】7才のコーラひめは、りっぱな女王になるために朝から晩までする事がいっぱい。遊ぶひまもありません。なので、コーラひめは毎日ちっとも楽しくありません。そこで、名付け親の妖精に助けてほしいと手紙を書きました。次の日、助けに来たのは首にピンクのリボンをつけたおおきなおおきなワニ。ワニが、コーラひめのピンクのドレスを着て身代わりをする姿はなんともおかしいけれど、応援したくなります。

問い合わせ先

苅田町立図書館 ☎093-436-0946

開館時間：9：30～17：30 (木・金は19：00まで。本館のみ)

ホームページから蔵書検索もできます



(2020.4.4発行)